

会社情報 (2021年9月30日現在) About us

● 会社概要

商号	ディーエムソリューションズ株式会社	従業員数	正社員 254 名、その他 170 名
証券コード	6549	事業内容	■ダイレクトメール及び宅配便の発送をワンストップで行う発送代行事業 ■コンテンツマーケティングやSEOコンサルティングサービス及び自社メディアサイトの運営等によるインターネット広告事業
設立	2004年9月15日		
資本金	3億4,259万円		
本社所在地	東京都武蔵野市御殿山1丁目1-3 クリスタルパークビル2F		

● 役員 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長	花矢 卓司
取締役副社長	福村 寛敏
取締役	勝山 純一
取締役	木村 和央
取締役	小林 剛司
取締役 ^{※1}	松藤 悠
常勤監査役 ^{※2}	宮本 則昭
監査役 ^{※2}	齋藤 哲男
監査役 ^{※2}	高見 之雄

※1 社外取締役 ※2 社外監査役

● 拠点情報



IRメール
登録の
ご案内

当社ではIRに関する情報をタイムリーにお知らせする
IRメールを配信しております。ぜひ、ご登録ください。



ディーエムソリューションズ株式会社

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1丁目1-3 クリスタルパークビル2F



Business Report

ディーエムソリューションズ株式会社

2022年3月期 中間報告書 2021年4月1日～2021年9月30日

特集1 強みと戦略

特集2 キーパーソンに聞く

お客さまが必要とする全ての 「もの」と「こと」をつなぐ会社。

お客さまが求める「ソリューション」をリアル×ネットで創出する。

広告主
(企業)

ダイレクトメール事業

リアル×ネット、2つのビジネス基盤(インフラ)を生かした
新規事業

インターネット事業

エンドユーザー
(消費者・企業)

ディーエムソリューションズ株式会社

DM SOLUTIONS

IRサイトのご案内

当社は、株主・投資家の皆様にタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、IRサイトの充実を図っております。ぜひ一度お立ち寄りください。

スマートフォンでIRサイトへ



ディーエムソリューションズ IR

検索

Webで閲覧可能

当社の株主通信は冊子、Webどちらでも閲覧することができます。



上記のQRコードからご覧いただけます。
<https://ir-p.jp/dms/report/index.html>

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2022年3月期第2四半期の事業活動と業績についてご報告させていただきます。

当第2四半期においては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、長期にわたり緊急事態宣言が発出されるなど経済活動において多大な影響を受け、非常に厳しい事業環境となりました。

このような状況の下、主たる事業であるダイレクトメール事業においては、当社の営業力と取引業種の広さといった強みを最大限活用して営業活動を展開いたしました。また、フルフィルメントサービスにおいても高まるEC需要を取り込むことに邁進するとともに、設備増強、拡張といった先行投資を行いました。その結果、第2四半期(累計)としては過去最高の売上高を計上し、計画よりも上振れて着地となりました。

進行中の2022年3月期は「さらなる飛躍のための準備、育成の期間」と位置づけた戦略を取っております。ダイレクトメール事業、インターネット事業の主力事業においては事業拡大、収益性向上に努めます。また、各新規事業においては、当



社グループ内のシナジーを生かすとともに、その独自性を追求することで事業の収益化を急ぎ、当社グループ全体の企業価値向上を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月吉日
代表取締役社長

花矢 卓司

目次 Contents

- P.1 当社の事業領域
- P.2 株主の皆様へ
- P.3 特集1 / 強みと戦略
- P.5 特集2 / キーパーソンに聞く

- P.7 業績ハイライト
- P.9 ディーエムソリューションズ ラウンジ
- P.10 株式の情報
(株式の状況・所有者別株式分布状況・大株主の状況・株主メモ)
- 裏表紙 会社情報(会社概要・役員・拠点情報)

さらなる成長に向け、主軸事業の強化と新規ビジネスの育成に注力

リアル×ネット2つの事業を連携、シナジーを追求しさらなる事業の拡大へ

マーケティング戦略のベストソリューションパートナーとして、リアル×ネット、2つのビジネス基盤（インフラ）を生かし、事業を拡大・成長させていきます。

主軸事業の強化

新規ビジネスの育成

新規顧客開拓を進め、着実に事業領域拡大

ダイレクトメール事業

ダイレクトメール事業の強み

- 営業力・取引業種の広さ
- フルフィルメントサービスの応需能力
- 小中規模を得意とする物流ソリューション
- 広告制作のノウハウ・デザイン力

TOPICS 日野フルフィルメントセンター増床

高まるEC需要に対応すべく、日野フルフィルメントセンターを増床。従来の延床面積の約1.9倍に増床し、より多くの物量にも対応します。またOA化も進め、物流の高効率化、高収益化をさらに進めました。



収益の安定化、事業領域の拡大に努める

インターネット事業

メディアに関する強み

- SEOノウハウ
- パートナー型展開スキル

マーケティングに関する強み

- コンサルティング力
- 広告運用ノウハウ
- Web構築力

TOPICS 積極的なメディア展開を継続

SEOアルゴリズムの変更への対応を再構築、メディアの選定を見直すとともに、自社メディアを積極的に投入。また、コンテンツの質の向上を図りつつ、パートナー企業との連携をさらに推進していきます。



取扱量の多さ
取引業種の広さ

連携・シナジー

ノウハウ
テクノロジー

リアル×ネット、2つのビジネス基盤（インフラ）を生かし、新規事業（EC領域）を展開、育成

D2Cビジネス

ECサポートビジネス

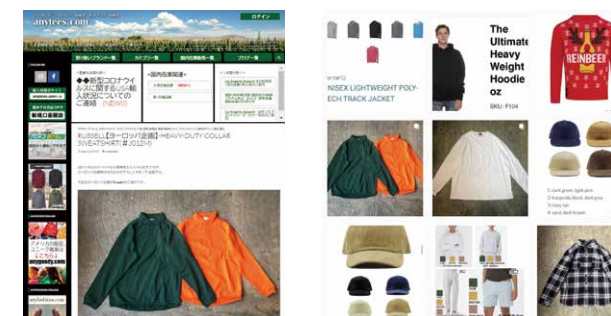
Web対応DMサービス

ECビジネス

アパレル事業

TOPICS M&Aによる事業拡大の先行モデルとして 当社の強みを注ぎ、さらなる成長へ

当社の持つフルフィルメントのノウハウ、SEO、ECノウハウを注入、ビアトランスポーツの持つポテンシャルを生かし、ECビジネスの拡大、当社の事業規模の拡大、企業価値向上を図ります。



飛躍的成長に向けた 各事業の取り組み

リアル×ネット、そのシナジーを生かし、事業を成長させるために何をしていくのか、成長ドライバーの軸となる各事業のトップが、飛躍に向けた取り組みについて語ります。

執行役員
東日本ダイレクトメール事業部長
松尾 賢治

ダイレクトメール

当社の強みでもある営業体制と営業力の強さ、ダイレクトメール取り扱い量のスケールメリットと受託能力の高さ、そしてワンストップソリューションによる短納期・低価格という好循環サイクルを最大限生かし、引き続き積極的な営業活動を行ってまいります。

当第2四半期はコロナ禍の影響を受けつつも、積極的な営業活動が功を奏し、コロナ禍以前を超える水準まで売上高を回復させることができました。下期については、今後回復が見込まれる得意先への深耕営業を行うと同時に、新規顧客獲得に向けてもさらに邁進してまいります。

フルフィルメント

コロナ禍において、Amazon・楽天などのECモールやネットショップのEC市場は、年々拡大しています。昨年8月にはEC物流に特化した物流センターをオープンさせ、【ウルロジ】として商品入庫から出荷作業まで一連の業務をフルフィルメントサービスとしてご提供しております。

WMSを使用し、様々なECサイトともAPI連携が可能で、ECスタートアップの企業様や、はじめてアウトソーシングする企業様へ最適な物流の仕組みをご提案しております。引き続き積極的な営業活動を行い、売上高拡大、高収益化を進めます。



デジタルマーケティング事業
ストラテジック部
部長
長谷 誠

東日本ダイレクトメール事業
物流企画部
部長
宮崎 祐二

パーティカルメディア

運用型広告とSEO両方での集客力、コンテンツ制作能力の高さ、グループ会社であるPerformance Technologies社との連携による広告主との強固な関係性、そして、パートナー企業との提携メディア運営ノウハウを最大限生かし、引き続き積極的なメディア展開を行ってまいります。

当第2四半期は、コロナ禍による巣籠もり特需のあった昨年からの反動と一部サイトのSEO下落が重なり収益は落ち込みましたが、その中でも下期に向けて複数ジャンルでの新規サイト展開を進めてきました。

これにより、収益基盤の強化と2023年3月期での飛躍を目指してまいります。

デジタルマーケティング

デジタルマーケティング事業の強みはWebマーケティング全般施策を一気通貫で行う社内体制基盤、自社運営サイト複数保有で培った成功PDCAノウハウをサービス提供することが可能なことです。

当第2四半期は顧客ニーズに合わせたコンサルティングサービス提供最注力の方針を掲げコロナ禍の中、新規顧客獲得が堅調な推移となり営業利益が前年同期比で大きく伸びました。

下期については、コンサルティングサービス提供注力の方針は継続しながらリアルとネット当社特有のインフラを最大限生かしてさらなる売上高伸長を目指します。

執行役員
パーティカルメディア事業部
運用開発部長
高田 栄治



当社取締役
兼 株式会社ビアトランススポーツ代表取締役
小林 剛司



アパレル（ビアトランススポーツ）

アパレル業界は非常に厳しい市場環境下にあります。店舗のEC化、D2CといったIT、物流との親和性が高く、ディーエムソリューションズの持つノウハウを有効活用することにより、強い競争力を発揮できる業界と言えます。

ビアトランススポーツはコロナ禍においてもEC、D2Cのニーズに対応する商品ラインナップを取り揃えることにより、実店舗を展開している取引先への卸販売の落ち込みをカバーすることができました。

2023年3月期に向けて、IT強化に向け各種プロジェクトを進めておりますので、ご期待にお応えできるよう、尽力いたします。

(単位:百万円)

2022年3月期 第2四半期(累計)業績(単位:百万円)					
	前年同期実績	実績	前年同期比	期初計画	計画比
売上高	6,904	7,972	15.4%	7,681	3.8% (+290)
営業利益	445	32	△92.8%	△32	— (+65)
経常利益	445	34	△92.3%	△35	— (+70)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	280	△1	—	△44	— (+43)

第2四半期
(累計)業績の
ポイント

- 主軸のダイレクトメール事業において、ダイレクトメールサービスは、新規開拓、既存顧客からの受注ともに堅調に推移し、過去最高の売上高に。
- EC関連で需要の高まるフルフィルメントサービスも拡大が継続し、日野フルフィルメントセンターを大幅に増床。
- 収益性の高いインターネット事業は、SEOアルゴリズムの影響を受けた低迷から回復を図るものの、第2四半期時点で回復トレンドへの回帰とはならず。

2022年3月期
通期業績
見通し

- 前期比11.4%増の約162億円の売上を計画。事業拡大とともに新サービスの開発など戦略的投資も積極的に行い、主軸事業強化及び新規事業の育成に注力。

決算説明動画

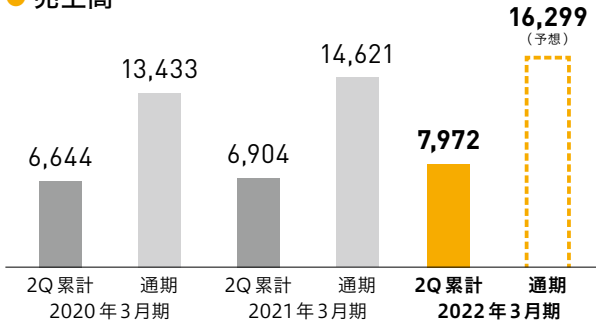
業績や今後の取り組みについての決算説明動画を配信しています。ぜひご覧ください。

右のQRコードからご覧いただけます。

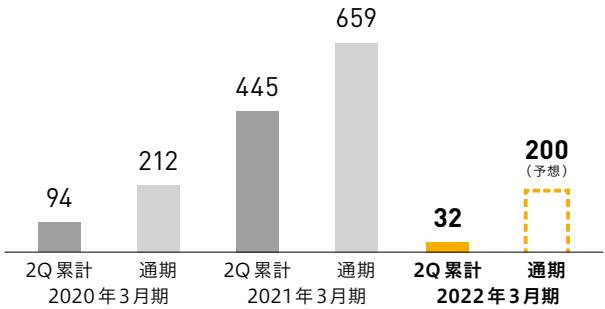
<https://irp-system.net/presenter/?conts=01fm4m35t0bmy8z8gh2pkf4j2s>



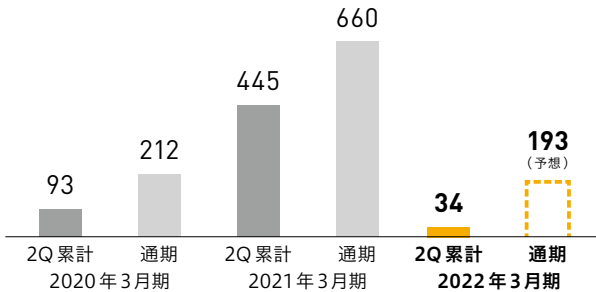
● 売上高



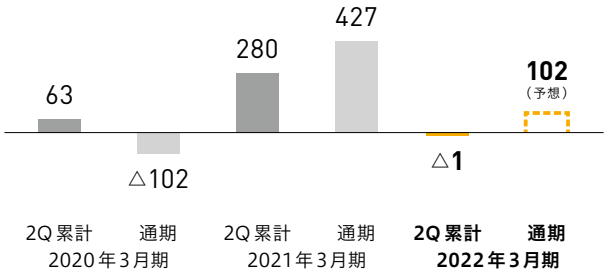
● 営業利益



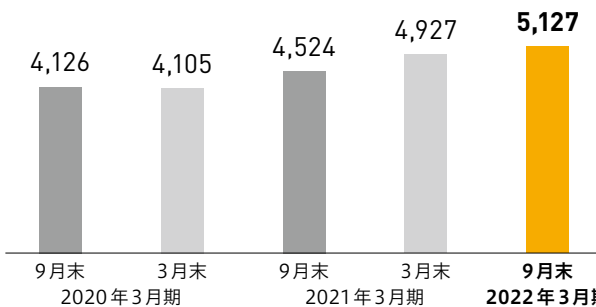
● 経常利益



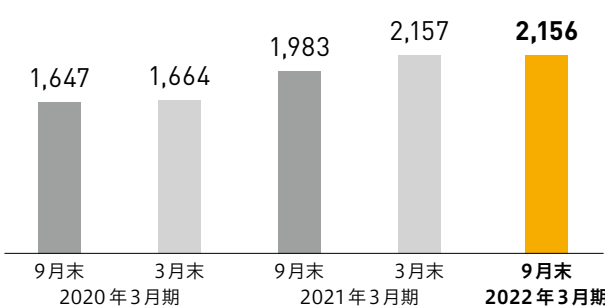
● 親会社株主に帰属する四半期純利益



● 総資産



● 純資産



※当社は、2021年4月1日付で株式会社ピアトランスポートを子会社化しております。これに伴い、2022年3月期より連結決算となっております。



事業のトピックスやお知らせなど、
株主様とのコミュニケーションコーナーです。

● コーポレートサイトをリニューアルしました

当社の事業内容をより深くご理解いただけるように、コーポレートサイトをリニューアルいたしました。どのような端末からでもシンプルでわかりやすく、どなたにも見やすいデザインになっています。

今回のリニューアルに合わせてサステナビリティに関するコンテンツも公開しました。

ぜひご覧ください



<https://www.dm-s.co.jp/>

担当者より

ここがポイント

今回のリニューアルでは2014年から続いていたデザインを刷新し、「ダイレクトメール」「Webマーケティング」以外の事業も分かりやすくお客様にお伝えできるよう整理を行ったほか、スマートフォン端末などでも見やすいよう対応いたしました。



数字でみる

ディーエムソリューションズ
31.5%

2021年9月現在 / 営業95人のうち、女性は30人

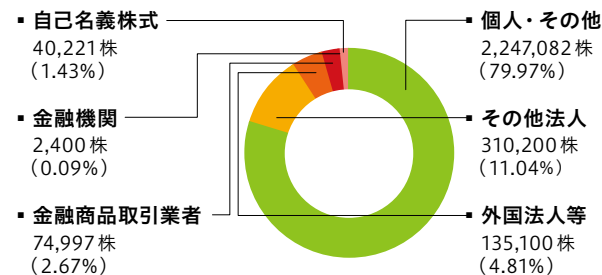
これは営業部門における女性社員の比率です。当社の強みの原動力のひとつでもある営業の強さですが、その現場における女性の活躍は眼を見張るものがあります。当社では性別に関係なく、自ら目標として定めたキャリアプランを実現するために活躍できる環境を用意しています。

株式の情報 (2021年9月30日現在) Stock information

● 株式の状況

発行可能株式総数 8,800,000 株
発行済株式総数 2,810,000 株
株主数 1,847 名

● 所有者別株式分布状況



● 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 3月31日
(そのほか必要がある場合は予め公告いたします)
単元株式数 100 株
上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
公告方法 電子公告により行います。
公告掲載 URL: <https://www.dm-s.co.jp>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

● 大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
花矢 卓司	909,800	32.85
福村 寛敏	568,700	20.53
アセットインクリーズ株式会社	260,000	9.39
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	63,900	2.31
中村 剛	51,400	1.86
松本 和久	50,000	1.81
MSCO CUSTOMER SECURITIES	39,625	1.43
株式会社SBI証券	32,654	1.18
株式会社北斗	30,000	1.08
ディーエムソリューションズ社員持株会	22,400	0.81

※持株比率は自己株式を控除したうえで、小数点以下第3位を四捨五入して計算しております。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-232-711 (フリーダイヤル)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
各種事務手続き 詳しくは、こちらのページにてご確認ください。
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>